



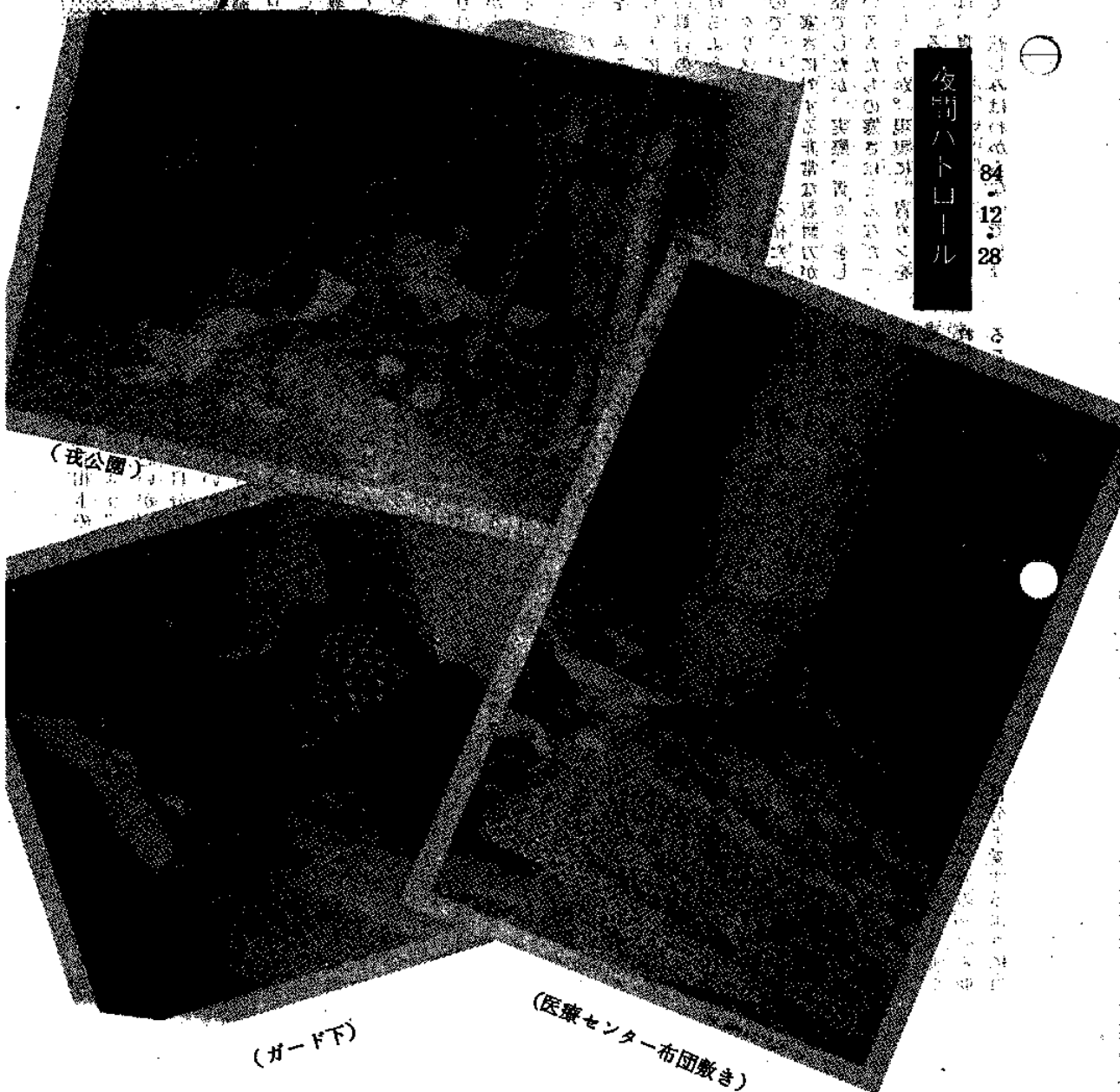
News Letter
from
KAMAGASAKI



KIBOU

No. 95

1985. 1



夜間
八ト
ロール

84
12
28

(戎公園)

(ガード下)

(医療センター布団敷き)

釜ヶ崎のために祈りを

釜ヶ崎活動 白石 昭 郎

大寒に入り寒さもちい段と厳しくなってきましたが、この季節が釜ヶ崎の日雇労働者の人々にとりては最も辛い時であり、それ故、釜ヶ崎キリスト教協友会の人々が最も緊張して働かなければならない時となります。その日に仕事を得ず、収入がなかった人は、やむを得ず青カンをしなければなりません。青カンとは野宿することですが、野宿といっても、キャンプの時に寝袋に入っただけのような優雅なものではありません。たいていの場合、毛布一枚にくるまってアスファルトの道路の上か、公園の踏み固められた地面の上に寝るのがこの野宿です。十二月二十五日の夜、クリスマス祝いのもそこそこ、キリスト教協友会のメンバーは午後十時から十一時半までの夜間パトロールに参加し、更に一月十六日からは協友会独自で午前零時から二時までのパトロールを二月末までという目標で続行しています。もちろん、釜ヶ崎に

う。自分も少し相手の人の立場にいたらどうでしょう。「明日はわが身」という思いが、ふと心の中をよぎります。自分には関係がないなどと言っているのでしょうか。人間いつどうなるかわかりませんが、誰かいい好きのことで青カンなどするのでしょうか。自業自得だなどという言葉を青カンをしてい

る協友会の人々、パトロール毎晩パトロールを続けることは到底可能なことではありません。近隣の教会の有志のかたがたの協力を得てパトロールをしていきます。毛布やフutonを車かリヤカーに積んで、青カンをしている人たちに、ひとりどりに声をかけて、寒くないかどうか、体の具合が悪くないかどうか、たずねてまわります。寒い人には毛布やフutonをあげ、更に、カイロが欲しい人にはカイロを、みそ汁(インスタント)の欲しい人にはみそ汁をわたします。体の具合の悪い人には聖路診療所に行けるようにと紹介券を手渡しします。クリスマス頃、寒波が来ますので、パトロールをする私たちも、寒さに対する非常な忍耐力が必要でしたが、実際、青カンをしている人たちの寒さはどんなだったでしょうか。現実に、青カンをしている人々のそばに立って、話を聞けば、青カンの苦しみや痛み、そして、悲しみはわからないでしょう。

人も、キリストの兄弟なる最も小さい者のひとりであることには間違いありません。善きサマリヤ人が強盗に襲われ半殺しにされた人のそばを知らぬ顔をして通り過ぎて行ったように、もし、私たちが青カンをしている人を見逃して、飢死か、凍死にいたらしたらどうでしょう。キリストが再びおいでになった時、そのみ前で、どう言い開きが出るでしょうか。キリスト教協友会の今年の越冬活動の目標は青カン者から一人の凍死者も出さないということですが、そこで、この「喜望」を購読しておいでになるかたがたにお願いがございします。どうぞ、青カンをしている人を、天の父が凍死からまぬがれさせてくださるようにお祈りください。主の祈りで、「我らの日用の糧を今日も我らに与えたまえ」、「我らを試みに合

分の隣り人を愛することが出来るように、私たちの心から無関心や差別・偏見の心を取り除いて、寛容な心で、キリストが私たちを愛してくださったように、私たちが他の人々を愛することが出来るように、どうぞ、執り成しの祈りを主のみ前にお捧げくださるよう心よりお願いいたします。

アンジの聖フランチェスコと一人のらい病の人の物語りは大変有名です。聖フランチェスコはらい病の人に接することがどうしても出来ませんでした。天の父は彼にとって最もむずかしいことを、あえて実行するようにお命じになりました。祈りの後、出て行って、出会うであろう一人のらい病の人を抱擁し、その人に口づけするようになり、天の父は彼にお命じになったのです。聖堂で祈って出て行く

たしだ」と主のみ声でした。正直に、天の父と皆様の前で告白いたしますが、釜ヶ崎は私にとって、聖フランチェスコにとってのらい病の人のように、まだ、思われるのです。しかし、聖フランチェスコが、主のご命令に謙遜に従われたように、私も、無関心や差別・偏見の心を、主に取り除いて、釜ヶ崎を愛することが出来るようになりたいと思います。このいと小さいしもべのためにも、どうぞ、お祈りくださるようお願いいたします。

日本は新しいふるさと



◎ 昨年2月に来日されたワルター先生は今、西宮市に住まいを持たれ、日本語の勉強の中で、週一回むすび会に出席するため、喜望の家を訪れて下さっています。(この文章は西宮教会の30周年記念誌に投稿されたものです。)

よく私達は西宮教会のれいはいに行きます。毎月私達は神戸のドイツ教会に行きます。毎週月よう日、私はセレスティナ男声合唱団でうたいます。楽しいです。

今年二月、私のかぞくは西ドイツから日本に来ました。私達はドイツのブラウンシュワイグの福音ルテル教会の宣教師です。私のしことはデアコンとソーシャルセラピストです。かないはスイスのパールで神学生でした。そして、ドイツでクリエイティブセラピストでした。私達のドイツのしごとのせんもんは、アルコールの病気のセラピストです。そして、今はエリザベト・ストローム先生のこうけいしゃです。き来年、私は大阪のかまがさきのきぼうのいえで働きます。大てい、私は毎週金よう日かまがさきに行きます。そこに、むすび会のグループがあります。

四月から毎日、かないと私は三宮の日本語の学校で日本語をべんきょうします。私達の子どもは、神戸六甲のドイツ学校に行きます。トマスは来月十一才です。ブリギッタは七才半です。

日本はおもしろい国です。でも、日本語は大変むずかしいです。ドイツと日本のいろいろな事はともちがいます。私達はかんさいのいろいろな所を見ました。

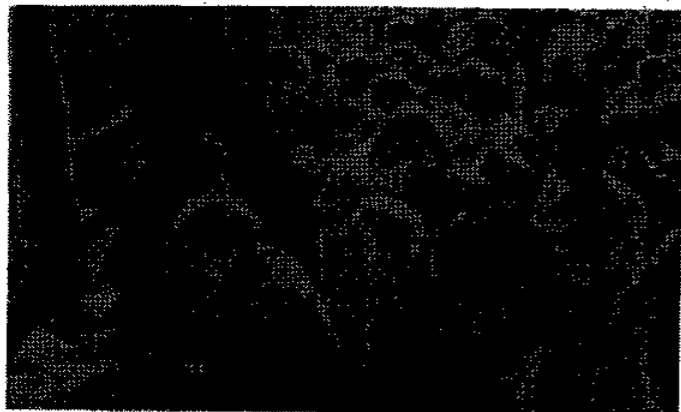


ワルター・ボイデー



1985年(昭和60年)1月28日 火曜日

〈給食〉 周りに何一つない宿泊所の唯一の楽しみは食事。カードを手に、配給に列ができた



この大浴場の一角には、大浴場の設備が整った二階建ての建物があり、その中には二階ベッドが並び、暖房は1棟に6つの石油ストーブが設置されている。この施設は、約300平方メートルの広さがあり、約30台の洗濯機が並び、下着などを洗う姿はたびたび見られる。洗剤も全部支給された。

南港の臨時宿泊所

南港の臨時宿泊所

南港の臨時宿泊所は、約30台の洗濯機が並び、下着などを洗う姿はたびたび見られる。洗剤も全部支給された。

〈外観〉 臨時宿泊所の周りには、酒泊許可のある人と関係者以外は立ち入り禁止だった

〈内部〉 プレハブ造りの2階建て宿舎内(延べ約300平方メートル)には二階ベッドが並び、暖房は1棟に6つの石油ストーブ

約30台の洗濯機が並び、下着などを洗う姿はたびたび見られる。洗剤も全部支給された

釜ヶ崎

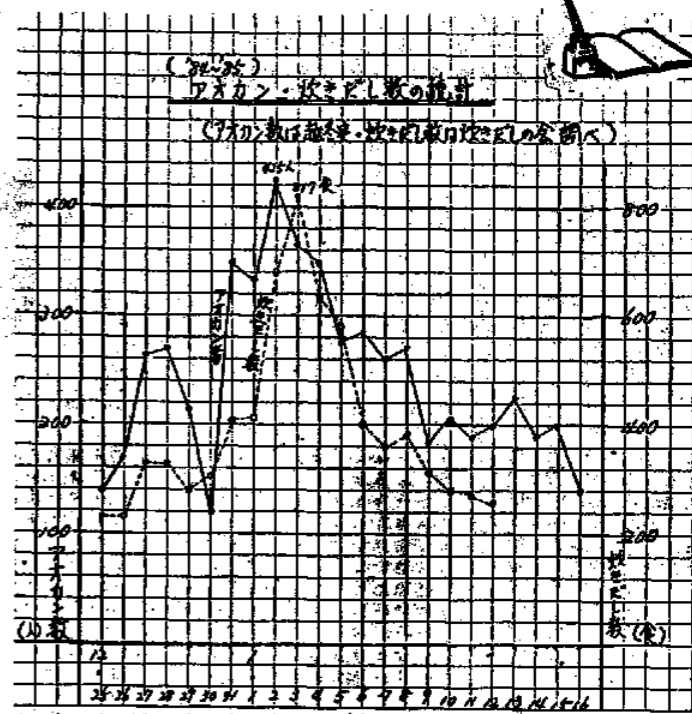
越冬中間報告

釜ヶ崎越冬闘争実行委員会は、昨年12月25日の越冬突入集会により闘争に入った。社会医療センター前で布団敷き、青カン者(野宿者)をシノギ(路上強盗)から護り、急病人には救急車を呼び入院してもらった。夜間パトロールを開始した。表参考トピックは1月2日、四二五名もの青カン者があり、一日平均二五〇名(12/25、1/15)の労働者がこの厳寒の中野宿を強いられる。これは、最近のドヤ(宿)がほとんど新築改築され、高級化し部屋数が少なくなり、高い部屋代になってきており、飯場から帰った労働者は、青カンを余儀なくされている。又臨時宿泊所は南港、自衛館を合わせて約一五〇名用意されたにも関わらず、約九〇〇名の収容できなく、昨年と変わらない市民生局の対応が問われる。

けない労働者に対し1日3回(朝昼、夜)雑炊を12月1日より提供し続け(協友会より1日15Kの米、野菜、調味料など)毎日四角公園には長蛇の列ができる。表参考12月31日から1月6日までがピークで、特に1月3日には八七七食まで達し、一日平均二八八食(12/11、1/12)で、総合計は二二四〇三食であった。又、炊き出しに並ぶ労働者の中で病気の者は医療券を発行し、市立更生相談所に行くが「要入院、要療養」の診断書をもっても、生活保護の適用を受けられた者は約3割にしか満たないのが現状である。切り捨てられた労働者は、どうなるのであろう。

クリン作戦とやらで、青カン者締め出しの金網があららちららで、高く張りめぐらされ、街の至る所で首を振る、監視カメラのある中で生活しなければならぬ。又、やっと入れた病院のガイドマンに暴行を受け、全治2週間の傷を負わされた労働者もいる。

今日の日本経済を藤の力として支えてきた労働者に対し、せめて同じ人間として生きる権利の確立を訴えずにはおられない。 Y・T



釜ヶ崎の臨時宿泊所。表参考12月31日から1月6日までがピークで、特に1月3日には八七七食まで達し、一日平均二八八食(12/11、1/12)で、総合計は二二四〇三食であった。

(谷口)

釜ヶ崎の臨時宿泊所。表参考12月31日から1月6日までがピークで、特に1月3日には八七七食まで達し、一日平均二八八食(12/11、1/12)で、総合計は二二四〇三食であった。